

| | |
|------------------|---|
| Title | 編集後記 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター |
| Publication year | 2023 |
| Jtitle | 日本語と日本語教育 No.51 (2023. 3) ,p.180- 180 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20230300-0180 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

コロナ禍でのオンライン授業は2年半、合計5学期にわたって続きました。留学生達からの強い要望もあり、昨春には、秋には全面対面授業という予定で授業計画を立てていましたが、8月初めに留学ビザの発行が間に合わない可能性があるとの情報が入り、8、9月はセンター教員も見通しが立たない中で大きな不安を抱えて状況を見守りました。9月半ばになり、学生達から来日予定の連絡が徐々に入り出した時には、教員一同、胸をなでおろしました。10月の学期開始までに大半の学生が無事に来日でき、当初の予定通り、対面授業に戻ることができました。始業式で一堂に会した学生たちの満足げな笑顔がとてもまぶしく感じられた学期開始となりました。

今学期は、2020年度春学期とは逆で、オンラインから対面への移行期間となりましたが、オンライン時に学んだ効率的な学務はそのまま維持し、対面の方が効果的な学務は対面に戻すというように、臨機応変に対応しながら、より良い日本語教育の場を学生たちに提供できるよう試行錯誤を続けています。

今号には論文3編、研究ノート1編、調査報告1編、授業報告3編の投稿がありました。そのほか修士生（本塾大学院文学研究科国文学専攻日本語教育学分野）の博士論文要旨1編を掲載します。

M.M